

ク  
4  
モ  
ト

く  
ち  
し  
と

口  
許  
口  
口

○ 今の手紙は 許の

あたりが  
お母さん  
にそつくり  
です。

○ 彼の堅く  
締った口  
許は強固  
な意志を  
表は

して  
ぬる。

敬

不

クチカマシイ  
クチヤカマシイ  
〔口喧しい〕 (形二)

○ 何處に近所にも口喧しい女が三人も居るの

でさうさく又仕方がない。

○ 子供の事だからさう口喧しく叱つた處でも

にほど効果があるものではない。

○ ~~口~~ 喧しく話す。

○ あり方はよいすたけれと口をかかす。

( )

ク  
4  
ハ  
ク  
4  
カ  
ク  
チャ  
ク  
チャ

副

くしやくしやく

○ 3 9 紙 を く ち や  
く ち や に し て は い け ない。

△ くしやくしやくと 殆ど同じ 様子 用ふ。

ク 4ヨオ くてう

「口調」(名)

○この文句は、口調が、~~いい、~~ ~~いい~~ 直傳用標語と

~~りては持たてこい~~

○彼はごく當りまへの口調で話したのだが、

その方が木声で演説口調で ~~話した~~ ~~木声~~ ~~叱り~~ ~~呼~~ ~~び~~

~~よ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~か~~ ~~ら~~ 効果があった。

○口調のよい文句

○標準語が正しい口調

○口調正しく話ませう。

ク  
ヤ  
ニ

ク  
チ  
ル

朽  
子

一  
自  
部  
又  
上  
一

○ ~~木~~が朽くす。

○ ~~表~~が朽くす。

△ ~~名~~事の鬼へ入る。

○ 腐くれはれる。

○ ~~庭~~木すつかり朽くちてしまる。

○ 木が朽くす。

○ ~~お~~とろろ。  
○ 癩かれる。

○ ~~彼~~の友が朽くす。

○ あの人の功績は永久に朽くすことがあい。

クツ

○靴を履く。

○靴が脱げた。

○靴を鳴らす。

○長靴を一足注文した。

靴

靴

クツウ

苦痛 (名)

○病人は時に身の苦痛を訴へた。

○人に自分の弱點をつかぬのは非常に苦

痛です。

○~~病~~しむ苦痛を感じない。

クワがイス  
くつがへす  
匿後す  
（他動詞）

舟を雨にカ。

盆を雨にカ  
△いとい雨をカ  
雨にカ

若少  
○ 武治の政權を雨にカ

○ 彼月説はくつかつたんじ。





ク  
が  
エ  
ル  
く  
つ  
か  
へ  
る  
既  
後  
子  
一  
自  
動  
ラ  
四  
レ

○ 数隻の船が風波のたぎりに既後った。

○ 彼の主張は反対者の出現によつて既後つ

た。

~~り~~如き漢字を既後つるものとけ既後らるゝあまふい

ク

△川井リ  
雪を頂いた富士の姿が  
青空にくっきりと

浮かび上って見える。

○青い湖、白いマレットがくっきり浮いてる。

○輪郭のくっきりした顔

( )

クツシ  
くつし

屈指  
名

○ ~~彼~~ <sup>あの</sup> ~~は~~ <sup>家の</sup> ~~ま~~ <sup>は</sup> ~~り~~ <sup>の</sup> 町でも屈指の財産家だ。

○ 北九州は我國屈指の工業地帯である。

クツシク

○ 靴下を履く。

○ 靴下留。

○ 靴下一足。

靴下 (右)

グツスリ　ぐっすり

(副)

○彼は非常に疲れてゐたので翌日のお書

まですりかき忘れたぐっすり眠った。

○いっすり寝てゐる。

( )

クツセウ

○腕。屈折運動

○光の屈折を巧みに利用したものが 老学様

屈折 (色)

しする

榊がある。

○水の中に入れた榊の先が曲つて見えるの

は、水に入ると屈折するからである。

クツタク  
くったく

屈託

名

すま(他)自  
すま(他)自

○母親が死んだといふのに子供達は何の屈

託もない無邪気な顔をしてすやすや眠っ

ておた。

○僕は物事に屈託もない性分だ。

( )

か  
つ  
たり  
ぐ  
つ  
たり

非常に疲れ  
た。さ  
ま。

副

○ 今  
は  
ぐ  
つ  
た  
り  
疲  
れ  
て  
し  
ま  
つ  
た。

○ ぐ  
つ  
た  
り  
と  
椅  
子  
に  
坐  
り  
こ  
ん  
で  
し  
ま  
あ  
つ  
た。

○ 死  
ん  
ど  
様  
々  
ぐ  
つ  
た  
り  
と  
横  
に  
あ  
つ  
た。





ク  
ツ  
ツ  
ケ  
ル

く  
つ  
附  
け  
る

(他  
下  
一)

~~体~~

附けるの体

○この箱は糊でくつ付けてあるだけだから水

につければすぐこはれてしまふ。

○本箱は壁にぴったりくつ付けて下さい。

グ  
ツ  
ト  
グ  
ツ  
と

副

○ぐつと 購飲む (酒飲む)。

○ぐつと おさへつける。 ○ぐつと ころふた。

○ぐつと 良くなる。

○ぐつと 成績があがる。

○ぐつと 打解ける。

鼎外

終りの三つの用例は、おつとの意味がある。

ク  
ワ  
は  
い  
で  
法  
を  
あ  
る  
。 中  
ま  
が  
四

〇 費い で 法を する。

〇 お費 ず し たい。

〇 久し 振り に やつ と 気が 変 いた。

〇 泥 山 不 費 たい 手 組 たい。



う  
と  
い  
と  
い  
い  
話  
い  
(形)

あ  
の  
人  
の  
話  
は  
と  
い  
い  
。

~~あ  
ま  
り  
と  
ど  
く  
同  
じ  
な  
話  
を  
い  
た  
い  
。~~

あ  
ま  
り  
と  
ど  
く  
お  
話  
は  
ま  
よ  
や  
う  
に  
な  
る  
が  
。

今  
は  
中  
に  
比  
上  
が  
下  
す  
い  
。

お  
と  
び  
の  
料  
理  
は  
す  
と  
あ  
ま  
ま  
。

お  
と  
び  
の  
様  
を  
す  
が  
お  
も  
う  
一  
度  
申  
し  
ま  
す  
。

Handwritten notes in Arabic script, including the word "الله" (Allah) and other illegible characters.

ク ト 材 テ ン ． く と ． ． ． て ん ． 句 読 兵

(名)

△ 文章 中 の 一 節 又 息 を 一 一 節 に 一 一 點

○ 句 讀 兵 を 三 つ 。

○ 句 讀 兵 を お と す 。

クドク・クドク

口説く

(他動カ四)

~~口説得ます。~~

口説は七はかりに説いておはる。

~~(刪) 口説をいふ。~~

口説の婆さん身の息子のことを口説いてる

と。

口説は事は何處に説いても江戸がな。



																			ク
																			ド
																			ク
																			く
																			ど
																			く
																			功德
																			功德
																			名

功徳を積む  
 功徳は積む  
 功徳に由来する  
 功徳の爲に善行を積む  
 功徳は積む

クドクド

くどくど

(副)

○隣のあ婆さんは誰にでもくどくど

口説く

話を始めるので皆から嫌はれておる。

○くどくと言ふと長くなるから簡単に話し

ます。

クナイシヨオ くないしゃう [宮内省] (名)

の宮内省では皇室に関する一切の事務を取

扱つてゐます

クニ

日本

國

名

敬

材

材

口 國土、國家。

口 日本、の國、

口 國王、愛す。

口 皇位、の國、

口 故國、故郷。

口 あなたはお國はど  
こからですか。

口 僕は十五の年、に國  
へ出<sup>か</sup>て上<sup>あ</sup>りました。

口 國へ帰る。

口 お國、あなた、お僕、は、お  
まかせ、人、か、

口 州

口 武蔵の國。

(四) 封土

○ 大はた國替へに成る。

(四) 國籍

○ あれの西洋人は國は何處か。

○ 才

敬  
○ 才  
○ …… 才が國の尊稱

(四) 地方

○ 北の國には雪が降る。

○ 燕は冬になると南の國へ飛んて行く。

△ 「  
クニ(市國)よりあつは日本の國の尊稱である。

クニモト

412 ↓ ↓ ↓

國許 (名)

敬不

○ 國許から母が出て来るので、これか、う駄に

迎へに行きます。

○ 今月は少し足りなくなつたので、國許へ五

十日程送金と言つてやつた。

○ 都合により、國許へ帰ります。のちへ参

葉書

クニ  
ニ  
カ  
カ  
ニ  
カ

カ  
ニ  
カ  
ニ  
カ

副

柔かく手筈のあいきま  
く  
に  
か  
く  
に  
か

○ ~~海~~ 海 (あまみ) 月のや  
ろ  
に  
く  
に  
か  
く  
に  
か  
し  
た  
も  
の

○ 熱い湯につけたら  
く  
に  
か  
く  
に  
か  
ら  
う  
た

クネル

クネる

曲る

(自四)

○この道は大分曲りくねってゐるが一本道

だから迷ふ心配はありません。

△曲りくねると連語として用ひられる



ク

ハ  
ル

ク  
は  
る

配  
了

(他  
四)

○<sup>(一)</sup> 配 分  
 ○<sup>(一)</sup> の 蜜 柑 を 一 人 に ニ ヲ ヲ ヲ 配 ヲ ヲ 下  
 案 内 状 は 学 校 の 生 徒 に 配 り せ ま せ う。

明日 給 食 自 己 にお 配 り し ます。

配 給 物 件

報  
有

( )

クビ

一、頸 頸部と体部との間

〔首〕 〔頸〕  
細くふつと頸の形をたぬ

○頸に傷のあつ男。

○頸を長くして 息子の 帰りを待つてゐる。

○手頸をたぶらる。

○頸巻

二、首 頭の事

○色々の手違かり頭が廻らぬ紅葉とふつた。

○あの人には不真面目だつたので會社に首に

はりた。 (やめさせられる)

○首を振る (橋本小宮が普通で子承知りた)

ク  
ヒ  
ツ  
ヒ  
キ  
~~キ~~  
ヒ  
ヒ  
頸引 (名)

或物を相手として努力してゐるさま。

○字引と頸引で構文<sup>英語を</sup>を讀んでゐる。

○教科書と頸引か。

クフウ

クフウ

工木

(名)

白考業業

一十(四)廿

〇〇この機軸は新工木だ。

白趣向

私が工夫したものです

〇なんとか言ひ工木はありせんか。

〇なんとか工夫が附きませう。

白智慧。

〇余等の工夫は言ひか。

〇非に工夫は言ひから行商を始めた。

敬

(コ)

夕  
べ  
ワ  
ト  
バ  
ヤ  
区  
別  
（名）  
す  
（自）

（人）差別。

○ 与 邦 区 別 可 也。

○ 誰 級 区 別 可 也。  
人 事 財 物 等 区 別 可 也。

○ ニ 二 種 類 区 別 可 也。  
ハ ヲ マ リ ト 区 別 可 也。

○ カ ン マ ナ イ。

（用）差別

○ 美 容 区 別 可 也。

○ 東 洋 人 区 別 可 也。  
松 本 区 別 可 也。  
カ ヲ カ ナ イ。

ク  
へ  
ル

く  
へ  
る

焼  
へ  
る

(他  
動  
バ  
下  
一)

~~火  
鉢  
へ  
炭  
を  
く  
へ  
る~~

〇

ス

ト

ー

フ

ル

を

く

へ

ス

下

下

下

下

下

下

下

火  
鉢  
に  
炭  
を  
く  
へ  
る



